

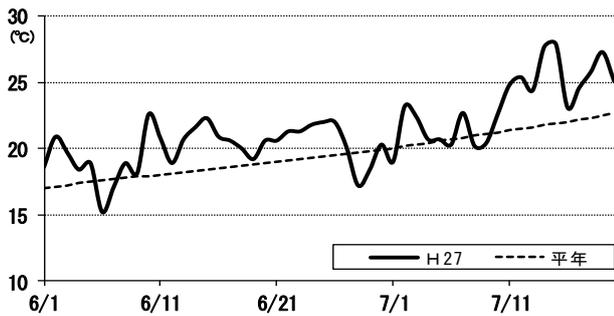
平成27年産水稻の生育状況について（7月21日現在）

1 生育概況及び今後の管理

- 7月21日現在、県内生育調査ほの幼穂長は93mm（平年差+62mm）となっており、ほとんどのほ場で減数分裂期に達しており、平年に比べて5～6日程度早まっている。
 今後の気温が平年並で推移した場合、出穂期は南部平坦地帯（ひとめぼれ）で7月26日頃、北部平坦地帯（ひとめぼれ）で7月29日頃になる見込みである。
- 生育については、草丈が70.4cm（平年比97%）、1㎡当たりの茎数が515本（平年比101%）、葉数が12.2枚（平年差+0.4枚）であった。
- 斑点米カメムシ類による品質低下を防止するために、薬剤散布による2回の防除（「穂揃期」と「その7～10日後」）を徹底するよう指導している。特に水田内にホタルイ等の雑草が残っている場合には被害が増加するので、防除効果を高くするために、1回目の防除時期を「出穂始～穂揃期」に早めるよう指導している。
- 葉いもちは、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除するよう指導している。

2 具体的データ

(1) 平均気温の推移（仙台アメダス）



(2) 旬別の気象データ（仙台アメダス）

	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	平年差	平年比	平年比	平年比	平年比	
6月上旬	18.8	1.2	30.0	90%	77.1	138%
中旬	20.6	2.1	4.0	9%	45.9	103%
下旬	20.5	1.2	96.5	147%	44.5	133%
6月	20.0	1.5	130.5	90%	167.5	125%
7月上旬	21.2	0.6	20.5	9%	44.2	128%
中旬	25.6	3.6	25.5	9%	69.6	198%

(3) 生育調査結果

a. 県全体

県全体	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/㎡)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
	70.4	98	97	515	96	101	12.2	0.3	0.4	33.2	▲1.8	▲0.7	93.5	53	62

b. 地域区分別

地域区分別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/㎡)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
北部平坦	70.4	98	97	528	94	99	12.1	0.0	0.3	32.6	▲1.8	▲1.2	82.4	36	52
南部平坦	76.8	102	101	488	105	102	12.9	1.2	1.0	29.1	▲5.9	▲3.5	194.8	148	146
西部丘陵	71.1	100	98	496	98	105	12.3	0.4	0.5	33.6	▲2.3	▲0.1	126.9	81	91
三陸沿岸	66.0	98	98	608	107	114	12.4	1.4	0.8	31.3	▲4.4	▲0.6	73.1	54	50

c. 品種別

品種別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/㎡)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
ひとめぼれ	71.4	100	99	505	97	102	12.3	0.4	0.5	33.8	▲1.5	▲0.1	100.6	56	70
ササニシキ	67.3	94	95	547	95	101	12.2	▲0.1	0.2	31.8	▲2.5	▲1.6	71.5	39	45
まなむすめ	70.9	94	90	503	91	99	12.1	▲0.1	0.1	32.3	▲2.4	▲3.3	98.0	63	53

※平年比・平年差：前5ヶ年（平成22年～26年）の平均値との比較

※葉緑素計(GM)値：葉に含まれている葉緑素(クロロフィル)量の測定値で、栄養状態を把握するもの。

※次回は7月27日現在の出穂状況を7月28日発表予定です。